

昆虫採集だけじゃ

もったい（勿体）ない

対馬の自然と文化を守る会

境 良 朗



アムールカナヘビ

■ 対馬のトカゲ類

昆虫の採集・撮影などのフィールド活動をしていると、植物はもちろんのこと多くの昆虫以外の生き物を目にするになります。従って日頃から様々な対馬の生き物についての知見を仕入れ、アンテナを張っておくように心がけています。

いつか思いもかけないような出会いが訪れることを期待して…。

ということです、初めに対馬のトカゲ類を取り上げます。対馬にはツシマスベトカゲ、アムールカナヘ

び、ニホンヤモリの三種のトカゲ類が生息しています。ツシマスベトカゲは全島に広く見られますが、私はこれまでアムールカナヘビを豊玉町和板より南で見たことが

ありません。

元々島内全域に生息していたものが南部地域で姿を消してしまったのか、反対に北部から徐々に生息域を広げている途中なのか分かっていません。是非アムール



ニホンアマガエル

カナヘビの南限記録に挑戦して解決の糸口を見つけてください。

本種は長崎県レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（VU）

に指定されています。南限記録でなくても、見かけたら発見地や頭数などをメモっておけば、レッドリストの選定資料としてはもちろんのこと、生息状況を把握する上での貴重な記録となるでしょう。

■対馬のカエル類

対馬にはツシマアカガエル（特産種）、チョウセンヤマアカガエル（大陸系種）、ニホンアマガエル（日本系種）の三種のカエルが生息しています。

アマガエルについては最近、日本列島の近畿地方付近で東西二つの系統に分かれるという論文が出たのは記憶に新しいところ

です。当然、対馬も、長崎も、西日本型に含まれるのですが、^{ちまた}巷で「対馬のアマガエルはバカでかい！」と言われているのをご存じでしょうか？

島外の人がビックリするといいうのですから間違いないでしょう。昔は島内どこでも普通に見られたアマガ

エルですが、めっきり少なくなっていました。出会ったら、ある程度の大きさが分かるように硬貨でもタバコでも何かスケールになるものと一緒に撮

チョウセンヤマアカガエル



影しておくといいでしょう。

またチョウセンヤマアカガエルについても生息域の課題があります。

以前、長崎県生物学会の会長をされている「かえる先生」こと松尾公則さんにお会いした時に、本種を下島で見ることがなかったのでお尋ねしたところ、「私も下島で探しています。」ということでした。

ツシマアカガエルとチョウセンヤマアカガエルは成体だと大きさで同定は可能ですし、春先の卵塊でも比較的容易に区別できます。撮影記録だけでも十分資料となります。本種は本県レッドリストで絶滅危惧ⅠＢ類(Ⅱ)に指定されています。

■ 貴重な植物 ハナナズナ

ハナナズナはアブラナ科に属しています。蝶に興味のある人はすぐにタイワンモンシロチヨウの食草

だ！と、頭に浮かぶと思います。ハ

ナナズナは日本で

は対馬と広島県に

記録のある大陸系

の植物でしたが、

広島県では既に絶

滅したようです。

対馬においてもシ

カの食害等によっ

て激減し、これま

で記録のあった豆

酸崎など島内数か



ハナナズナ

所では姿を消してしまいました。

対馬市でも島民のみなさんに情報を呼びかけるなど再発見に努めています。今のところいい話は聞こえてきません。海岸に近い日当たりと水はけの良

い崖地などを好みます。初夏から盛夏にかけて白い花を咲かせます。アブラナ科の特徴のある花ですから分かりやすいと思います。「これ、もしかしたらハナナズナ？」と思ったらカメラで撮って対馬市に尋ねられるといいでしょう。生物多様性の担当の方に対応して頂けるはずです。本県レッドリストで絶滅危惧ⅠA類（CR）に指定されています。

■ シベリアイタチ

最近問題になっている本土のシベリアイタチは侵略性のある外来種ですが、対馬のシベリアイタチ（亜種和名チヨウセンイタチ）は自然分布の在来種です。

対馬産と朝鮮半島産のシベリアイタチは遺伝的にも異なる独自の個体群を形成していることから、対馬のシベリアイタチは非常に貴重な個体群ということがいえます。日本における本来の生息地である対馬で急激に減少してしまいました。

ました。国の二〇二〇年レッドリスト改訂では、これまでの準絶滅危惧種(㉔)から絶滅危惧ⅠB類(㉔)にランクアップされました。



シベリアイタチ

ツシマテンとの競合およびシカの食害により餌となる下草が減ったことなどが原因とみられています。

実際、私はここ数年全く目撃すらできていません。長崎県レッドリストでは、「対馬のチヨウセンイタチ」として絶滅のおそれのある地域個体群(Ⅱb)に指定して

います。目撃（撮影）記録は本種の今後の動向を知る上で貴重な記録となるでしょう。

■ 対馬の在来カメ

対馬のニホンイシガメについて、浦田・山口（1976）は一九六五年の比田勝の標本記録と厳原の採集記録の二例を記載し、「クサガメに比べて個体数は少ないようである。」と述べています。最近ではクサガメは十八世紀末に持ち込まれた移入種と考えられているので、在来種のニホンイシガメと競合した結果、各地のニホンイシガメが減少したとも考えられます。

ということで、対馬では近年ニホンイシガメの記録を全く聞きません。実際私自身、これまで一度もクサガメを見たことはありません。元々沼や溜池など、カメの好む生息環境が貧弱な対馬なので憂慮しています。

メダカやエビ、ゲンゴロウなどの水生生物が好きな方はもししたら出会うチャンスがあるかもしれません。本県レッドリストで準絶滅危惧種（2C）に

指定されていますが、対馬の現状はCRか、EWの可能性すらあります。

〈引用文献〉

浦田・山口（1976） 対馬の爬虫類 対馬の生物
255-260 長崎県生物学会編

対馬グローカル大学の環境ゼミでは、島内の自然環境や生物相調査等を行っています。

フェイスブックで投稿を呼びかけますので利用されてみてはいかがでしょうか。

検索 「こんな対馬、みつけた！」

<https://tsushimaglocal-u.com/>